

特色のあるため池の紹介

| 名 称 | | 所 在 地 | |
|-----------------------|---------|-----------|-------|
| こうみょういけ 光明池 | | 大阪府堺市・和泉市 | |
| 貯水量 | 受益面積 | 堤高 | 堤頂長 |
| 3,696 千m ³ | 約300 ha | 26.0 m | 350 m |

ため池の紹介文

光明池は和泉市と堺市にまたがるため池で大阪府内で最大の貯水量(約370万m³、京セラドーム大阪3個分)を誇ります。奈良時代の聖武天皇の妃として、広く民衆に慕われた「光明皇后」が、大宝元年(701年)にこの地に生誕したという伝説にちなんで、光明池と命名されました。光明池副堤防改修を記念して建てられた光明皇后の像が、光明池を見守っています。

光明池が造られたのは昭和11年で大阪府のため池の中では、比較的新しいため池です。池が造られる前、この地域では、雨水に頼って農業を行っていましたが、3年に1回は干ばつによる不作が起きていました。そこで、槇尾川の水を貯めておき、農業用水として利用するために、光明池が造られました。昭和初期は建設機械が発達していなかったため、人力を中心とした工事が行われました。左下の写真は、木製栈橋の上を人力トロッコで資材を運搬している様子です。池の中には作業員の詰所と思われる小屋が多数建っており、多くの作業員が関わっていたことがわかります。右下の写真では、光明池の堤体の中心を12 m以上も掘っていますが、これも人力で掘られたもので当時の土木技術が伺えます。

現在は大規模災害に備え、光明池土地改良区と大阪府、受益市(和泉市、高石市、泉大津市)がため池の水を地震や火災などの大規模な災害が発生した際の防災活動に利用する協定を結び、いざというときには、ため池の水で地域の皆さんの生活を守れるように新たな取り組みを行っています。

ため池の写真

ため池全景



災害時の生活雑用水として活用するため、ろ過機を使用したろ過訓練を実施。



木製栈橋の上に資材を運ぶ
人力トロッコ



堤体の中心部。刃金土を入れるために
人力で12m以上掘っている。